# 令和7年度椎葉小学校　第2回学校運営協議会(10/15)

1　日程説明の後に、各地区高齢者とのふれあい活動「ほのぼのふれあい広場」を参観していただきました。
　委員の皆様も、児童・参加された高齢者と一緒に、昔の遊びに参加いただいた後、今回も「チャレンジ」を軸とした協議を行いました。

（田爪校長のあいさつの様子）

◇本校運動会への参加及び児童への激励に対して感謝申し上げるともに、各地区で行われている運動会・スポーツ大会・祭り・神楽に職員と参加し、「地域と共にある椎葉小」を目指して参ります。

◇各地区民の皆様との交流・懇親を楽しみにしています。
◇今回も子どもたち一人一人が「チャレンジすること」を決めて取り組んでいます。

2　「ほのぼのふれあい広場」は、低学年は昔の遊びとして『こま・おじゃみ・けん玉・あやとり・ぬいぐるみづくり』を、中・高学年は『グラウンドゴルフ』を高齢者の皆様と活動しました。

◇子どもたち・高齢者団体のみなさん・そして委員のみなさんが一緒に時間を共にする場面があり、微笑ましい様子が見られました。

0　実は、開始15分前に集まっておられた委員の方々は、本校児童を取り巻く環境についての“教育談義”をされていました。

◇子どもたちの様子を見ていると、先生や大人に対する距離感が近く、我々の時と違う。だからこそ、大人に何ができるかを考えないといけない。

◇椎葉から出て社会に出るまでに「厳しさ」をいかに、学ばせればいいか悩むところである。案外、時間はないことも認識しないといけない。

◆ 今日の「ほのぼのふれあい広場」、または先月の秋季大運動会での子どもたちの様子から、どんな印象や感想をもっておられますか？

今日のふれあい活動を見ていて、冷めた子どもが一人もいない。先生方も一人一人の児童に寄り添っている。一方で、高学年は「やりたいこと」があるが「やらないといけないこと(責任)」が多くしんどい思いをしているのではないか。しかし、その姿に下の学年の児童はついて行っている。

運動会を見ていて先生方は「児童に手(口)を出さない」という大きなチャレンジをしていたと思う。ハンディキャップのある子に対する関わりにより互いに成長している気がする。

「ほのぼの」の“ぬいぐるみづくり”で時間短縮のために成形されたリボンを使っていた。これも作らせることで、チャレンジのチャンスが生まれるのではないか。

# 令和7年度椎葉小学校　第2回学校運営協議会(10/15)

## ◆ 今日の「ほのぼのふれあい広場」、または先月の秋季大運動会での子どもたちの様子から、どんな印象や感想をもっておられますか？

運動会において、国旗掲揚の時には子どもたちも「起立・脱帽」がいいのではないか。高学年の独自性・独創的な応援が見られたり、特別支援学級の児童との関わりから思いやりが感じられたりと、よい運動会だった。
私も小学校在学時に先生からコマ回しを教えてもらった。こういう経験を今の小学生にもしてほしい。

先生が出る幕がなく、5・6年生の自主性を感じる運動会だった。特に、PTA保体部の保護者に役員のやり方を教える高学年児童の姿が印象的だった。学校全体で「(児童に)しなさい」を「(児童が)したい」になっている。
また、チャレンジするには失敗は必須。その失敗を糧にして次につなげるということで成功体験が増えると考える。

運動会では一生懸命取り組んでいる姿が見られた。赤の完全優勝だったので、白に応援賞をやってもよかったかな・・・
ほのぼのふれあい広場等のような経験の場は、家庭や地域で創出していく方がよいと思う。

徐々に、チャレンジの核心に迫ります。

今日の「ほのぼのふれい広場」では、児童も参加者の方々にも笑顔が多かった。私も小学校時代に同様の行事があったが、つまらない印象であった。しかし、椎葉小の子どもたちは楽しく取り組んでいて素朴で素直な子どもたちだと思う。また、今日の笑顔は、これまでの段取りが良かったため互いに楽しむことができたのではないだろうか。
最近は、遊びでさえもスムーズになり失敗することがない。失敗しながら成長するという過程を大切にしていく必要があると考える。

## ◆ 子どもたちがチャレンジするために、【学校(先生)・保護者・地域】ができることとは？

今回も熟議化していきました。

今日の「ほのぼのふれあい広場」を見ていて、日常的にかつ自然にこのような賑やかな場があるのが理想。今年度が半年経ち、田爪イズムが浸透していると感じている。それは、運動会然り今日も然り・・・先生方の動き(支援)から感じる。正直、4月当初、職員の入れ替り後の椎葉小を心配していたが、半年を経て感動している。

子どもたちが活躍できる場をつくることが、大人ができることではないか。
一方で、「何にチャレンジさせるのか」という目的により、準備するものや段取りも変わってくる。
今日の昔の遊びであれば、地区住民が集まる場所に、その道具が常設され触れやすい環境をつくることも挙げられると考える。

「ほのぼの」で、子どもたちの中には初めて触れるであろう昔の遊び(コマ・けん玉・あやとり・おじゃみ)の体験は、貴重だと思います。初めて触るというのが大切です。

【田爪校長】
大人ができることとして「ねらって失敗させる」ことが大切です。校長として、講評や全校集会での話で「失敗は怖い、逃げることがあってもいい、逃げ続けると癖になる」等について語っている。一方で大人に啓発する場面が少ないのが気になっています。
小学校は中学校と比べて、楽しませる場面は多いのは特徴と考えています。

「ほのぼの」で、各地区からほとんど参加しているのがよい。以前は子ども会主体でやれていたことが、少子化の進行で難しくなっている。一方で、子どもたちに参加を強いる行事が多いのが気になる。「ゆとり」が必要で、行事の精選が必要だ。

# 令和7年度椎葉小学校　第2回学校運営協議会(10/15)

◆ 子どもたちがチャレンジするために、【学校(先生)・保護者・地域】ができることとは？

「ゆとり」の必要性については、我が子が小学校在学時にスポーツ少年団の指導者をしており、正直反省しているところもある。もう少し余裕のある過ごし方ができたらいい。

自分の子どもが小学校在学時は、週三回のスポーツ少年団、自分も消防があり、週末は練習試合といった具合でした。今、我が子の子(孫)が小学生になり伝えているのは、家族で旅行に行ったりレジャーに行ったりすることは大切にするよう言っている。

一方で、椎葉村外に頻繁に出過ぎと思うような家庭も見られるし、いつも忙しくされている家庭も見られる状況と感じている。

昨年度、学校運営協議会において、委員の皆さんが授業に参加した時があった。あの時の学習課題は「みんなにとって幸せな椎葉村にするためには」というものでした。高齢者の視点から街づくりについて協議し子どもたちは私たち大人に提言してくれた。その際、社会福祉・財政・社会情勢・少子高齢化・産業振興・教育・啓発等のさまざまな視点でやりとりしていたのは素晴らしかったと思っている。つまり、さまざまな視点に触れることのできる環境の整備も大人に課せられているのではないか。

【まとめ】
子どもたちがチャレンジするためにできることは・・・
①しっかり教えたり練習したりした後、子どもたちに委ねることが大切。
　その中でチャレンジの機会が生まれる。
②段取りよく進めようとする大人の優しさ(配慮)が、チャレンジの機会をなくし、成長の機会を奪う可能性もある。
③「ゆとり」の視点で子どもの活動や行事を見直し、精選することも必要である。
④学校・家庭・地域で、チャレンジし失敗した時には、子どもが納得するフォローができる大人が必要である。

【田爪校長】
　今回参加頂いた高齢者の皆さんの意見を集約してみたい。また、先日参加した鹿野遊地区の運動会で、大人が楽しむ姿を子どもたちが見ている光景（失敗も含めて）に何度も接した。これが素晴らしいと思います。
　また、学校ができることとして、子どもたちがチャレンジに失敗した後、どの先生も同じようにフォローが入れられる教師集団でありたいと考えています。

熟議の最後に田爪校長が謝辞を述べた。次回第3回学校運営協議会は令和8年2月12日(木)、13日（金）のいずれかです。ありがとうございました。